

弘大に産学官研究拠点 来年度完成 新産業創出目指す

弘前大学は25日、産学官連携の研究拠点施設を弘前市本町地区の大学敷地内に建設すると発表した。来年度中の完成予定で、20億円

弘前大学の産学官連携研究拠点施設の建設予定地。奥が医学部学部棟。弘前市本町地区



弱の建設費を国が全額補助する。健康ビッグデータを活用してヘルスケア産業などを創設する「弘大COIネクスト」事業を軸に、新たな産業づくりを目指す拠点とする。

施設は鉄筋コンクリート4階建てで、延べ床面積約2700平方メートル。医学部学部棟裏の駐車場に建設する。ビッグデータ解析部門「健康・医療データサイエンス研究センター」や、弘

大との共同研究講座を開設している企業などの研究拠点を置くほか、利用者同士の交流スペース「オープンラボ」、コワーキングスペース（共用型作業スペース）などを整備する。

弘大医学研究科が中心となつて取り組むCOIネクスト事業は、企業などと同で特許や商品、サービスなどを生み出し、社会に還元するのが狙いの一つ。弘大は、企業などとの連携を他の研究科でも積極的に進める方針だ。

今回の補助には産学官連携に取り組む全国の国・公・私立大30校が選ばれた。福田眞作学長は「本州最北の地方大学が有力校の一つとしてクローズアップされたのはすごいこと。COIや理工、農学生命、被ばく研究など弘大の強みをさらに発展させたい」と語った。

（赤田和俊）